

2年生 インターンシップ報告書

After

改良ポイント

- ① 目的や課題意識を明確にしてインターンシップに参加できるよう、参加前に業界の課題などを調べ、実習先で実態を確認させる。
- ② 育成を目指す資質・能力について、インターンシップ参加の前後で考える問いを加える。



インターンシップ報告書 2年 組 番 氏名 _____ 実習先 _____
 期間 月 日() ~ 月 日()

インターンシップ参加前の記録	インターンシップ参加後の記録
①実習先の業界が抱えている課題、今後発展が期待される事柄は何か _____ ②①の課題に対して、または今後さらに発展していくために、その業界が取り組んでいることは何か _____ ③あなたが社会に出た時、仕事を通して感じたいやりがいや喜びは何か _____ ④能代松陽高校が育成を目指す「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの力を、今、あなたはどれくらい身につけているか、5点満点で自己評価しよう 前に踏み出す力—①②③④⑤ 考え抜く力 —①②③④⑤ チームで働く力 —①②③④⑤ ■まとめの問い インターンシップで学んだこと。今後の高校生活で生かしたいと思うこと _____	①実習先の業界が抱えている課題、今後発展が期待される事柄に、業界や実習先は具体的にどのように取り組んでいたか _____ ②①の取り組みを見て、「もっとこうすればよいのではないか」など、気がついたことは何か _____ ③参加前の記録の③で記した「あなたが仕事を通して感じたいやりがいや喜び」を得るためには、実習先ではどんな働き方をすればよいか _____ ④能代松陽高校が育成を目指す「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの力を、あなたはどれくらい身につけているか、インターンシップでの経験を踏まえて、5点満点で自己評価しよう 前に踏み出す力—①②③④⑤ (理由 _____) 考え抜く力 —①②③④⑤ (理由 _____) チームで働く力 —①②③④⑤ (理由 _____) インターンシップを通じて、進路について考えたこと _____

実習先の課題や展望を事前に調べておき、実態を実習先で確認するようにする。

実習先で経験したことを書くだけでなく、自分なりの気づきや提案を書かせるようにする。

学校として育成を目指す資質・能力について、インターンシップの前後で自己評価させ、自己理解を深めさせる。



インターンシップを、生徒が「仮説→検証」を経験する機会とするために、事前指導を手厚くしたいと考えていました。しかし、2年生の夏季休業前は行事も多く、さらに時間を割くことは難しい状況でした。改良した報告書を早めに生徒に提示し、取り組ませることで、事前指導の補完になると思いました。



今後は、改良した報告書をICTと連動させたいです。生徒は学習時間の管理をClassi(*)で行っていますが、そうした日々の記録と、インターンシップ報告書のような節目の記録を一元管理することで、生徒は日々の学習と進路意識を関連づけて高校生活のPDCAサイクルを回すことができるでしょう。



従来の事前学習はマナー講座などがメインで、インターンシップの目的や、就業体験を通して探究する具体的なテーマを考える時間が十分ではありませんでした。今回の改良で、生徒は実習で何を学ぶのかを明確にして活動に臨み、実習後には目的の達成度合いを振り返ることができるのではないのでしょうか。

* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

実 録

改良会議

先生方の
対話のダイジェスト

インターンシップの目的を あらかじめ生徒に言語化させ、 資質・能力の自己評価の機会にする

実習先の業界が抱える課題を事前に考えさせる

河野 現状の報告書の問題点を整理したいと思います。生徒は報告書にどんなことを書いていますか。

佐々木 多い年は学年の3分の2程度の生徒がインターンシップへの参加を希望しますが、「参加するなからこの仕事が面白そう」といった程度の動機しかない生徒も多いです。そうした生徒は、報告書でも「仕事は大変そうだったけれど、やりがいもありそう」と、どの仕事でも言えそうな感想しか書けません。

夏井 目的がないままでの参加では、気づきや発見が得られにくく、報告書の内容は希薄になり、せっかくの経験が後の進路選択につながりません。3年生になって推薦入試の志望理由書などを書く際、インターンシップの経験を交えて書くようにアドバイスすることがありますが、そこでの学びを今の自己や将来の目標と結びつけるのが難しいようです。

吉田 生徒の中で、インターンシップが単発の活動になっているのが課題です。高校3年間で自分ほどのように成長していくべきかを考え、その過程の中のインターンシップの意義を自覚させたいです。

本校は、育成を目指す資質・能力として、経済産業省の「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの資質・能力を掲げていますので、それらも強く意識させたいです。

河野 生徒一人ひとりが自分なりの目的意識を持ってインターンシップに参加するようになるためには、どのような仕組みが必要でしょうか。

佐々木 なぜ目的意識を持っていないかと言うと、生徒たちは社会についての知識が乏しく、実習先がどんな社会貢献をしているのか、理解が不十分だからだと考えています。

吉田 前任校でもインターンシップを実施していましたが、参加後に生徒に、「あなたが就業体験した業界は、どんな課題を抱えていた?」「それにどう向き合っていた?」と聞いても、なかなか答えられませんでした。事前に業界の課題などを調べることを通じて、実習中に確かめたいことをあらかじめ考えさせたいですね。

夏井 活動を具体的に示すとまじめに取り組むのは、本校の生徒の長所です。業界の課題を調べておき、実習先がその課題に対して具体的にどのような



改良会議を振り返って



先生方との対話を通じて、自分の中の課題感が具体的にになっていきました。そうした自分の内面を整理する心地よさを、生徒にも体験させる対話の機会を設けたいと思いました。

生徒に変化を求めるのであれば、まず教師が変わるべきです。以前からある教育活動を、資質・能力の育成という文脈で捉え直した今回の機会を、私たちの変化の契機にしたいです。

学校を活性化させていくには、中堅・若手の活躍が必須です。今回の対話の場を、インターシシップ報告書の改良にとどめず、若い先生方も含め、学校全体で動き始める機会としたいです。

河野 学校が育成を目指す資質・能力として掲げる3つの力からも考えたいと思います。どのようにすれば、生徒たちは3つの力について、インターシシップと関連づけて考えやすくなるでしょうか。

佐々木 自分は3つの力をどれくらい備えていると思うか、インターシシップの事前事後に自己評価させるとよいと思います。そして、3つの力をそれぞれ自分ほどのくらい備えているかを問うだけでなく、インターシシップのどのような経験がその評価につながったのか、理由まで聞くことを事前に生徒

3年間の教育活動の文脈を生徒に自覚させる

ことに取り組んでいるのかを現場で見てくださいと指示することで、参加の姿勢が変わりそうです。生徒が事前に調べたことを実習先に伝えておくことは、先方の受け入れ準備にもつながります。

に示すことで、育成を目指す資質・能力を意識して実習に臨めるようになると思います。

夏井 将来的には、3つの力のルーブリックを作成し、それを踏まえて生徒にインターシシップを通じて自己理解を求めたいですね。そうすれば、実習が外の世界を知る機会になるだけでなく、自分に対する評価軸をつくる機会にもなります。「この業界で働き、社会貢献するために、高校でこの資質・能力を伸ばしたい」と語れるようにしてあげたいです。

吉田 高校生活のどのような教育活動を通じて、どの資質・能力を育むのかといった本校としてのグラウンドデザインを描き、それを教師と生徒が理解することが重要です。そうすれば、どんな目的でインターシシップに参加するのか、そこで学んだことをその後の活動にどうつなげていくのか、生徒は俯瞰的に語れるようになるでしょう。報告書の改良を、そうした大きな改革の一步につなげたいです。



改良会議ファシリテーター



VIEW21編集部
高次領域担当責任者
河野仙一
この・せんいち

先生方が感じられている生徒の課題と理想を語り合う中で、「自主」「創造」「協働」という校訓に話が及んだことが印象的でした。その校訓に描かれる生徒像を育成すべく、教育活動全体を俯瞰して、改めてインターシシップの活動のねらいを整理した今回の改良会議は、部分と全体が響き合う、カリキュラム・マネジメントの実践の1つの形であったと思います。

2015年に連載を開始した本コーナーは、今号でいったんの終幕となります。幕間に、ぜひバックナンバーをご覧くださいと思います。ウェブサイトに、これまで改良会議で作成してきた指導ツールを、加工可能な形式でダウンロードできるように、活用時期にまとめています。

検討を経て磨かれた指導ツールを提供することだけでなく、その完成に至るまでに交わされた先生方の対話の内容も、自校での指導ツール検討の参考にしていただきたいというのが、本コーナーのねらいでもありました。ぜひ、記事本文をご参照いただきまして、自校でも指導ツールの改良会議を実践していただければ幸いです。そしていつの日か、その対話の様子を取材させていただきます。

生徒指導・進路指導上、活用できる指導ツールを、加工可能な形式でダウンロードできます。



「生徒指導・進路指導ツール集」
https://berd.benesse.jp/magazine/kou/dwdata/data_kou.php